

故吉本清信先生 追悼射会



温かい眼差しの吉本先生に見守られて

12月10日（日）、橿原公苑弓道場において、昨年12月16日にご逝去された吉本清信先生を偲ぶ追悼の射会が開かれました。清信先生の奥様である康子様、ご子息の吉本清巳様、奥様の望様がお越しください、兵庫県からは林文夫先生、和歌山県から佐竹万里子先生、滋賀県から中野秀也先生、青森県から川村光良先生、広島県から宮脇保博先生がご参加くださいました。一般参加者含めて100名が集いました。

奈良県弓道連盟会長の西中正先生の先導により黙祷。挨拶の後、奈良県連より須田三郎先生、範士を代表して林文夫先生より、清信先生を偲んでお言葉をいただきました。ご子息の吉本清巳様から、動画も使用して故人の紹介をいただき、改めて清信先生の弓と共に生きた人生を知ることができました。その後、西中会長による矢渡しに引き続き、来賓の林先生、中野先生による一つの射礼、川村先生、宮脇先生による一つの射礼、そして奈良県連代表（副会長、顧問、部長）による射礼が行われました。心のこもった射礼でした。ご子息である吉本清巳先生による答礼射が行われ、見事なその射には皆様への感謝の気持ちや清信先生への気持ちが込められていたように感じました。

閉会式のご遺族挨拶では、「弓道が好きで、そして皆様のご協力もあって大好きな弓を続けてこられたと思います。一生懸命練習をする人でした。最後は自分が引けなくなっても道場へ行くという人でした。69才の病気の時、かなり強い抗がん剤治療をしました。そ

のおかげで残りの10年を過ごせたのだと思います。皆さんが楽しく弓を引いて、弓をする人が増えてくれると喜ぶと思います。今日は追悼射会を開催していただきありがとうございました。」と感謝の言葉を述べられました。



西中会長による矢渡し

晴れ男だった清信先生らしく、12月だというのに暖かく、すっきりとした青空が広がり、温かな先生の眼差しに見守られているかのようなようでした。午後の参加者も各自一手に心をこめて捧げました。

遠方より起こし頂きました先生方、射会開催のため尽力して下さった皆様、参加くださった皆様、心を寄せてくださった皆様、誠にありがとうございました。



中央・天皇盃(レプリカ)、左・九段の認許状、右・範士の証書
下段・最高得点賞の盾、連盟からのクリスタルの感謝状
上段・左手で書かれた「三誓偈」

※追悼射会の様子は、後日紹介予定です。(編集 松澤和実)

吉本清信先生追悼射会の準備にあたって

未来へ繋げるために

私の知る限りですが、奈良県弓道連盟では昭和 60 年 12 月に伊藤昇先生の追悼射会が執り行われて以来、今回で 6 度目になります。これらの射会はすべて形式や趣が異なり、それぞれ故人の生き方にふさわしいものだったのだと思います。

本会の準備にあたって、少しでも吉本先生のお姿を感じ取れる射会にしたい、プログラムを考えた次第です。西中会長と清巳さんには、親しかった範士の先生にお越しいただくよう打診をしてもらい、一緒に稽古をされてきた須田先生には、ぜひお話をしていただきかけたので、無理をお願いしました。

また清巳さんが作成された動画による先生の紹介は、参加者が等しく共有できる時間だったと思います。吉本清信先生はお亡くなりになりましたが、先生のお考えやご指導は、私たちの心の中にはずっと生き続けています。

この射会は、先生の教えを受け継いだ奈良県弓道連盟が、さらに発展するよう努力を誓い、先生に届くように決意する瞬間でもありました。

(理事長 阪中 計夫)

新しい試み 年齢別講習会 60 歳以上の部

きちんとした大人としての品格を求めて、高齢者が求める弓についての研修

標題の講習会が 11 月 12 日 (日) 奈良市弓道場にて行われました。

講師：須田 三郎 教士八段、西中 正 教士七段

参加者は 25 名 (男性 12 名、女性 13 名)

(参段～錬士六段)

午前中は、開講式の後、審査要領にて一手行射、講評・講話、二射場での射技指導。午後は、一次審査の間合 (参段、四段、錬士五段)、持的射礼 (五段) 取り掛けの間合い、一つの射礼を各々 2 回、仕上げ行射 (1 本) 1 回、という内容でした。

講評では、入場で 2 番以降の人は、前の人と同じ軌道を進めるように歩数を考慮する。高齢者ほど坐射で鍛える。的中を求めない。射技指導では、両肩をそろえる。動かさない。等、背中を使った射を重点的に指導いただきました。その他、離れの馬手の方向が矢筋でない。引分けでは馬手の上腕三頭筋を目通り以降にし

昇段・昇格おめでとうございます

令和 5 年度【近畿地区】臨時中央審査会において次の方々が昇段、昇格されました。

(12 月 1 日～3 日開催)

プロシードアリーナ HIKONE 彦根市弓道場)

六段 高橋 悟史 さん (郡山支部)

錬士 鷲尾 佐和子さん (錬弓会支部)

八木 純子 さん (錬弓会支部)

おめでとうございます。 (事務局)

っかり使うこと。引分けで縦線が馬手側にかかり顎が浮いてくる人が多い。上半身だけの射が多い。等のご指摘をいただきました。総括として「五段以上は自分の射が出来てきているが、参、四段はこれから。」というお言葉をいただきましたが、小生は「自分の射が出来てきている」の見方を変えれば、悪癖はなかなか直せないと聞いてしまいました。現実に何年も同じ内容のご指導を賜っております。

講師の先生よりのご講話では、命題に上がっている「きちんとした大人としての品格を求めて、高齢者が求める弓について」とは何か?については、講師の先生にとっても難問のようでしたが、永い弓道経験の中で巡り会われた「射品を備えた先生方」についてのお話がありました。また、全日本弓道大会の「採点基準及び運用要領」を参考にし、心気の充実、内面的な気持ちの持ちようの大切さを述べられていました。「内面の指導は、本人が気づかない限りできない」ともおっしゃっていました。年齢に相応しい射品・射格を求めて、各自の目標を見直し自身の目指す方向を明確にし、すべきことをきっちりとしていくこと。弓道経験者であればすべてと喋っていいくらい解りにくい「射品」は内面から出てくるものであり人間として成熟しなければ表現出来ないものと思いました。

当日は先日来の寒波襲来と雨模様の天候で、高齢者の講習会日和とは言えない環境でしたが少数精鋭で心地よい緊張感がありました。

最後になりましたが、講師、指導部の先生方、一日中見守っていただきました阪中理事長にあらためて御礼申し上げます。 (奈良支部 中井 達男)

近畿地域地連幹部弓道交流会

射礼の稽古を中心に指導者としての研修を積む

11月18日(土)・19日(日)プロシードアリーナ HIKONE 弓道場にて交流会が行われました。各府県の会長先生から射技指導をいただいたり射礼の稽古などを行いました。他府県の先生方との親睦を深めて充実した時間を過ごしました。参加者は以下の6名。

西中 正(会長)、阪中 計夫(副会長・理事長)
藤岡 順(副会長・総務部長)、明瀬 憲正(副会長)
松村 由喜子(副会長・審査部長)、白井 礼子(競技部長)
(事務局 藤岡 順)

第41回奈良女子弓道大会

中学から一般まで109名、コロナ禍前の規模に

11月23日、一気に寒さが進んだ秋晴れのなか、ルート奈良(奈良市)弓道場において奈良女子弓道大会を開催しました。奈良県の女子が一堂に集まり、中学2校高校5校を含む団体33チームと個人10名、計109名が参加。コロナ禍前の規模に戻り、「優雅のうちに、容姿凛然たること」を目指した熱戦を繰り広げるとともに、競技運営を実践で学ぶ機会となりました。矢数は各自4射ずつ2回(1チーム24射)で行い、団体戦では13中の天理大学が優勝、個人戦では式段以下の部7名、参段以上の部3名が決勝に進み、凌ぎを削りました。結果は次の通りです。

団体

- 1位 天理大 (片山 綾菜、神谷 陽里、馬野 帆乃佳)
- 2位 郡山 (奥戸 由美、大森 恵子、平井 摂子)
- 3位 奈良I(土谷 ひろみ、吉野 みほ子、藤森 康恵)

個人

式段以下の部

- 1位 神谷 陽里(天理大)
- 2位 吉田 万智(奈良H)
- 3位 馬野 帆乃佳(天理大)

参段以上の部

- 平井 摂子(郡山)
- 真鍋 由紀(奈良)
- 松村 由喜子(奈良)



入賞者の皆さん

(奈良市弓道協会 高倉 美香)

第31回近畿高等学校弓道選抜大会

女子個人・米田選手(高田商業)、男子個人・辻本選手(法隆寺国際)が優勝

<個人戦> 予選 (4射3中以上予選通過)

女子	米田 理乃(高田商業)	4中→通過
	井上 姫星(法隆寺国際)	2中
	福本 菜月(桜井)	1中
	松田 明姫(郡山)	3中→通過
	村上 叶和(橿原)	3中→通過
	北川 心結花(桜井)	2中
男子	吉村 琉生(高田商業)	2中
	辻本 颯大(法隆寺国際)	3中→通過
	豊内 陸(桜井)	4中→通過
	今中 悠聖(桜井)	2中
	小川 陽太(法隆寺国際)	1中
	由佐 陽樹(郡山)	3中→通過

<個人戦> 決勝 (射詰5射目より8寸的を用いる)

女子	米田	〇〇〇〇	1位
	松田	×	遠近の末8位
	村上	〇〇〇×	遠近の末3位
男子	辻本	〇〇〇〇	1位
	豊内	〇×	
	由佐	〇〇〇×	遠近の末4位

女子個人の部 入賞

- 第1位 米田 理乃(高田商業)
- 第3位 村上 叶和(橿原)
- 第8位 松田 明姫(郡山)

男子個人の部 入賞

- 第1位 辻本 颯大(法隆寺国際)
- 第4位 由佐 陽樹(郡山)



個人入賞者

<団体戦> ■予選 (各自4射チーム12射 上位8校が決勝トーナメント進出)

■女子 桜井 5中

(福本 菜月, 小西 佑奈, 村島 明日香, 伊藤 楓彩)

高田商業 7中 →通過

(米田 理乃, 森 綺羅羽, 多留 萌唯沙, 池下 琴音)

郡山 9中 →通過

(松田 明姫, 菊谷 七奈子, 長谷川 玲花, 橋本 結衣)

■男子 桜井 5中

(竹田津 遼太, 今中 悠聖, 豊内 陸, 多田 陽真)

五條 5中

(伊東 響, 森井 爽斗, 遠 大輔, 近藤 洋介)

奈良 5中

(藤森 敢太, 吉田 拓末, 岡村 知岳, 山根 莉空)

■女子・決勝トーナメント

郡山、高田商業ともに残念ながら1回戦で敗退しました。
(高体連 布施 慈人)

第34回奈良県大学選手権大会

県内大学が切磋琢磨する良い機会に

標記の大会が、11月26日(日) 橿原公苑弓道場で行われました。

今年は奈良教育大学が主幹を務めさせて頂きました。慣れないことも多く、大会当日まで先生方をはじめ各大学の皆様にはご迷惑をお掛けすることが多々ありましたが、皆様のご協力を賜り無事に大会を終えることが出来ました。ありがとうございました。

コロナ禍のため中止となっていた矢渡も今年からは復活し、貴重な経験をさせていただきました。また、去年よりも参加数が増え、大会を通して多くの方々と交流することができました。今回の大会を通じて得た繋がりを大切に、今後も奈良県の大学が切磋琢磨し合っ様々な場面で活躍していけたらと思います。

ありがとうございました。

結果は以下の通りです。

<団体>

- 男子 1位 奈良大学 A チーム
2位 天理大学 A チーム
3位 奈良県立医科大学 B チーム

- 女子 1位 天理大学 A チーム
2位 奈良女子大学 A チーム
3位 奈良県立医科大学 A チーム

<個人>

- 男子 1位 本田 晴基 (天理大)
2位 瀧田 悠翔 (奈良県立医科大)
3位 井内 良 (奈良県立医科大)

女子 1位 片山 綾菜 (天理大)

2位 神谷 陽里 (天理大)

3位 上田 純寧 (奈良大)



男子団体 左2位、真ん中1位、右3位



女子団体 左2位、真ん中1位、右3位



男女個人 真ん中1位、外側へ2位、3位

(奈良教育大学 森山 まこと)

第4回世界大会 日本代表選考会

西田選手が8名の中に出選されました

標記の件、東京での参加者 35 名による選考会が行われました。20射20中が1名、19中3名、18中6名というハイレベルな戦いの中、19中で西田選手が8名の中に出選されました。

今後の強化練習で選手3名×2チームとそれぞれのチームの控え選手に編成されるとのことです。

(事務局 藤岡 順)

編 | 集 | 後 | 記

昨年12月16日に亡くなられた吉本清信範士の追悼射会が粛々と行われました。全日本での優勝2回、準優勝1回、最高得点賞8回。奈良県連の会長、全日本弓道連盟の副会長を務めその発展に尽力されました。身近な方々からのお話から、「真面目・誠実・実行力・研究者」だったことが伺われます。そして右手が不自由になり左手で書いた「三誓偈」(1P最後の写真上段)は奥様へ宛てて書かれおり、布目道場には「報恩」「感恩」「知恩」の書が掲げられております。誠実なお人柄にも心を打たれます。
(編集担当 松澤 和実)